

# 中小企業動向 トピックス

## 中小企業の景況は、緩やかに回復している

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要  
〔2015年1-3月期実績、4-6月期および7-9月期見通し〕

当公庫ではお取引先のご協力を得て、2015年3月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象12,373社、有効回答企業数5,709社、回答率46.1%）。

今期の中小企業の業況判断DIは、非製造業の業種を中心に上昇し、全業種計で4期ぶりに上昇しました。プラス水準となるのは7期連続です。

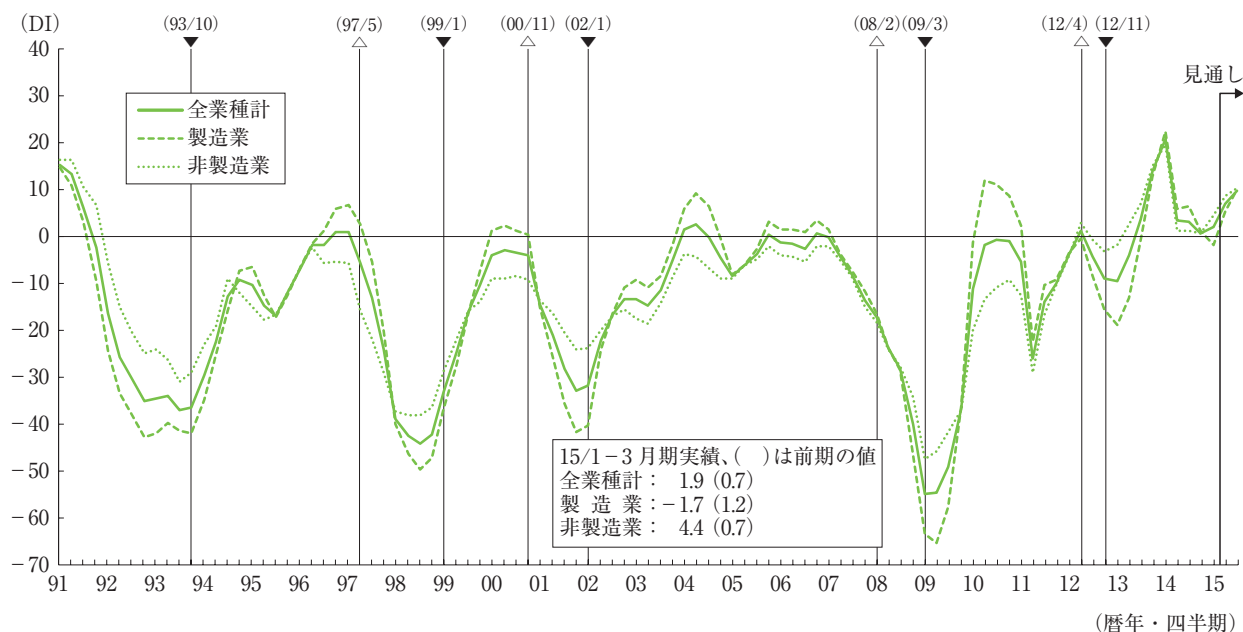
来期、来々期は、製造業、非製造業のDIはともに上昇する見通しです。中小企業の景況は、緩やかに回復しています。

### 業況判断DIは4期ぶりに上昇

今期（2015年1-3月期）の業況判断DI（全業種計）は、前期（2014年10-12月期）から1.2ポイント上昇し、1.9となりました（図表-1）。上昇は4期ぶりです。製造業は前期から2.9ポイント低下し-1.7に、非製造業は3.7ポイント上昇し4.4になりました。

先行きについては、製造業、非製造業のDIはともに上昇し、全業種計で来期（2015年4-6月期）は、今期から5.2ポイント上昇し7.1に、来々期（2015年7-9月期）は9.8になる見通しです。

図表-1 業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



(注) △は景気の山、▼は景気の谷を示す（以下同じ）。

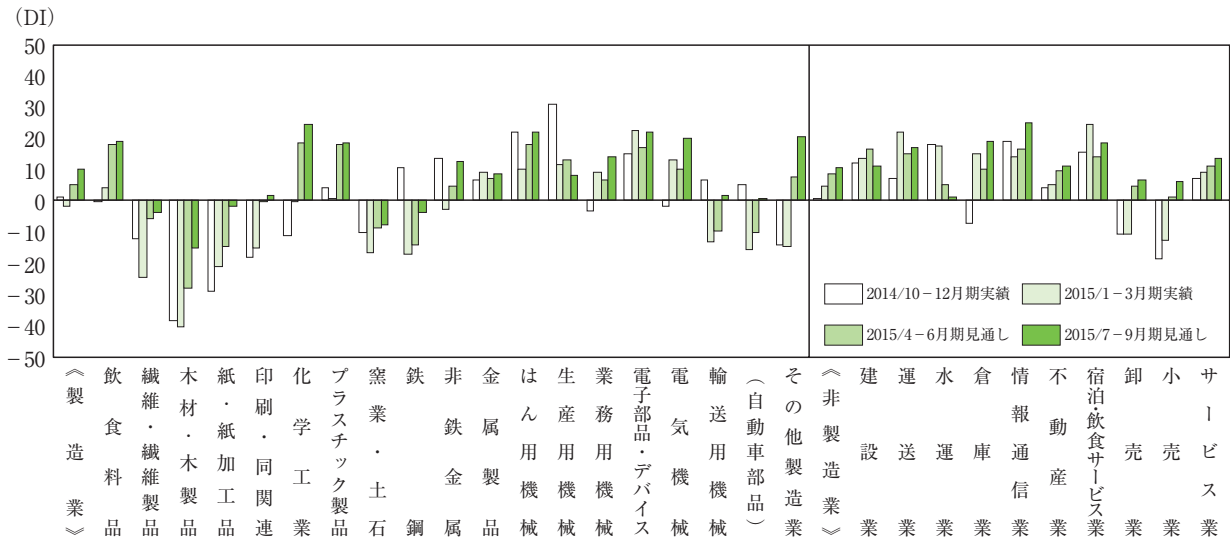
## 非製造業の業種を中心に業況は回復

今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業では、個人消費に関連の深い繊維・繊維製品や木材・木製品、国内生産が伸び悩んでいる輸送用機械などで前期から低下し、マイナス水準となっています（図表-2）。一方、外需や企業の設備投資を背景に、金属製品、はん用機械、生産用機械、電子部品・デバイス、電気機械など、金属・機械関連の業種の多くはプラス水準となっています。

非製造業では、建設業、運送業、倉庫業、宿泊・飲食サービス業など幅広い業種で前期から上昇し、プラス水準となっています。住宅着工の底打ちや荷動きの持ち直しに加え、原油安や訪日外国人旅行者の増加も追い風となっています。卸売業、小売業は引き続きマイナス水準となっていますが、卸売業は前期から横ばい、小売業は前期から上昇しています。

先行きをみると、製造業では、今期マイナス水準の業種においても、上昇を見込む業種が多くなっています。一方、非製造業では、来期、来々期はすべての業種でプラス水準となる見通しです。

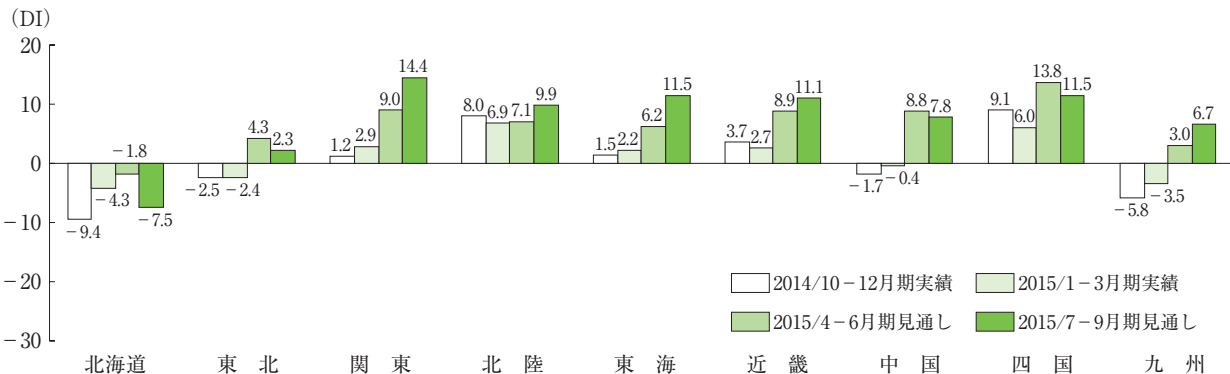
図表-2 業種別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）



## 5地域でプラス

業況判断DIを地域別にみると、今期は関東、北陸、東海、近畿、四国の5地域がプラス水準となっています（図表-3）。来期、来々期は8地域でプラス水準となる見通しです。

図表-3 地域別業況判断DIの推移（前年同期比で「好転」-「悪化」企業割合、季節調整値）

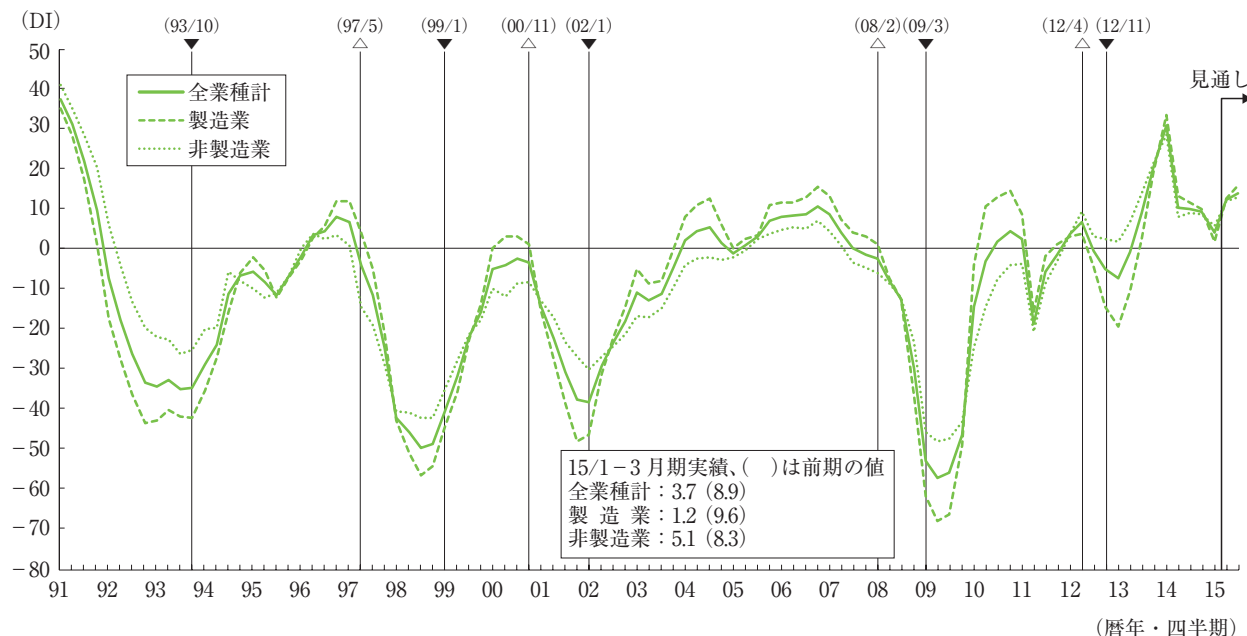


## 売上DIは7期連続でプラス

今期の売上DI（全業種計）は前期から低下し、3.7となりました（図表－4）。製造業は1.2、非製造業は5.1となり、水準は引き続きプラスです。

先行きについてみると、来期は全業種計で11.9に、来々期は13.5になる見通しです。

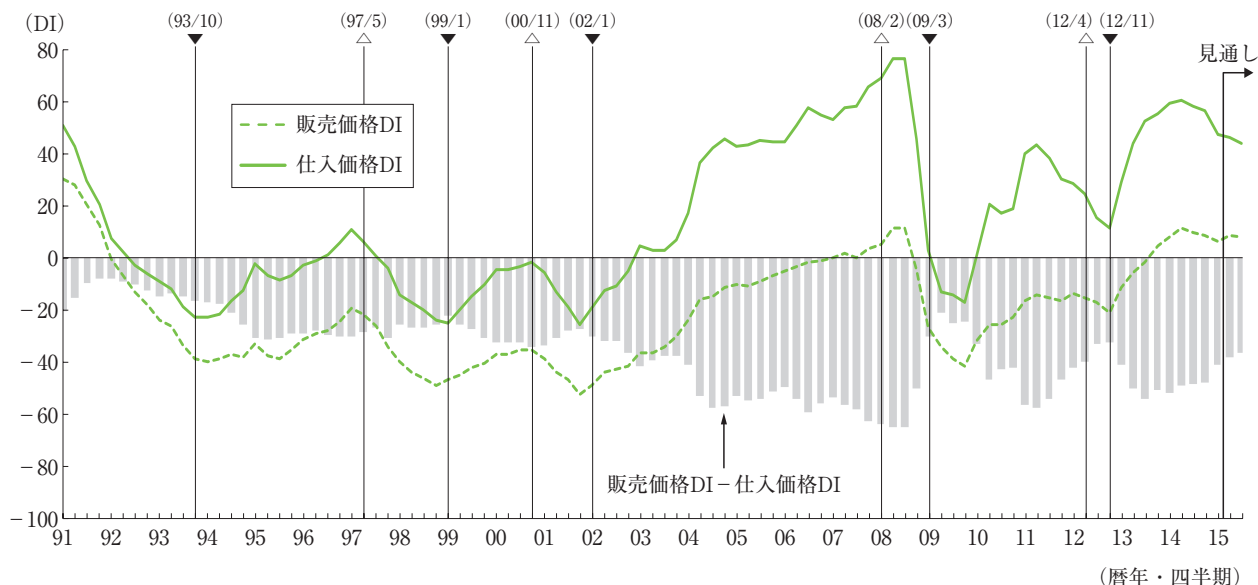
図表－4 売上DIの推移（前年同期比で「増加」－「減少」企業割合、季節調整値）



## 販売価格DI、仕入価格DIともに3期連続の低下

今期の価格関連のDI（全業種計）についてみると、販売価格DIは前期から2.4ポイント低下し6.5となりました（図表－5）。仕入価格DIは9.1ポイント低下し47.7となっています。低下はいずれも3期連続です。来期は、販売価格DIは上昇し、仕入価格DIは低下する見通しとなっています。

図表－5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも前年同期比で「上昇」－「低下」企業割合、原数値）

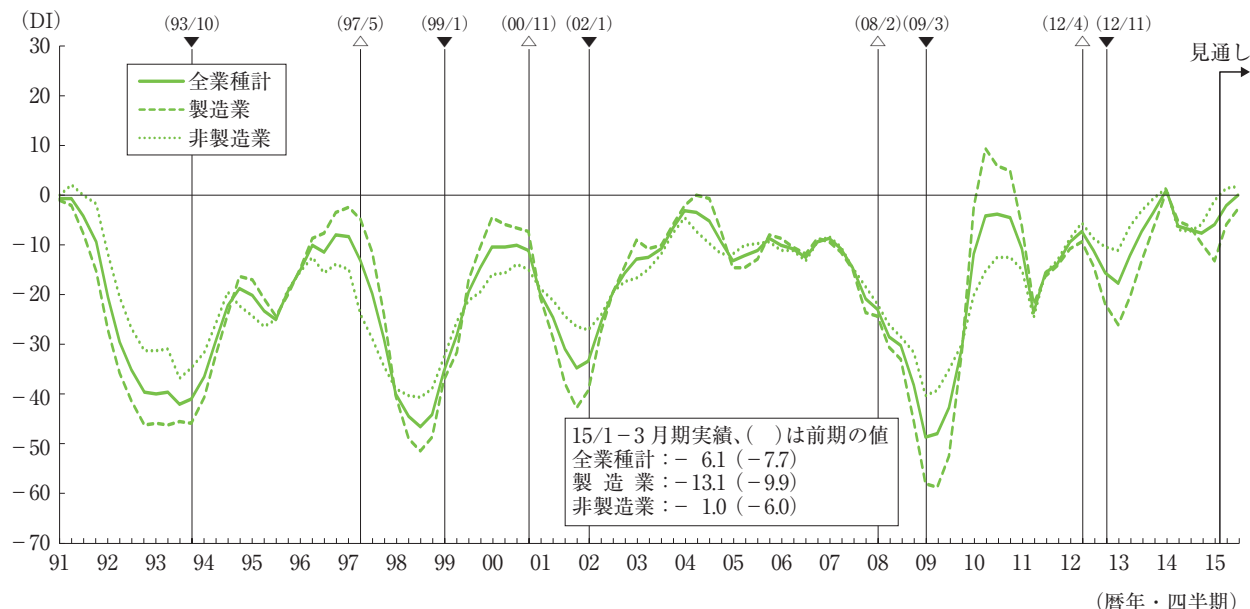


## 純益率 DI は 4 期ぶりに上昇

今期の純益率 DI（全業種計）は前期から 1.6 ポイント上昇し -6.1 となりました（図表-6）。上昇は 4 期ぶりです。製造業は 3.2 ポイント低下し -13.1 となり、非製造業は 5.0 ポイント上昇し -1.0 となりました。

来期は全業種計で -2.1 に、来々期は -0.1 に上昇する見通しです。

図表-6 純益率 DI の推移（前年同期比、「増加」-「減少」企業割合、季節調整値）

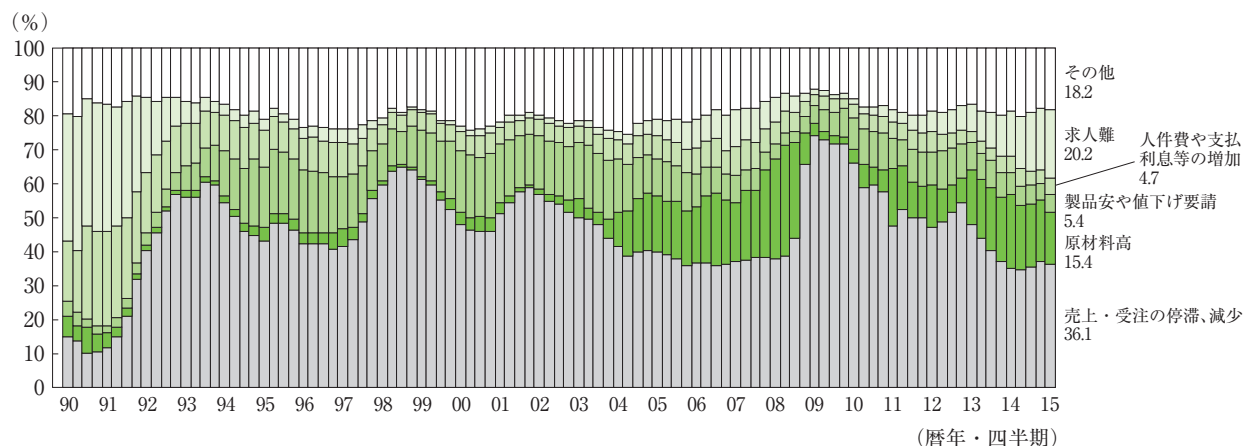


## 「求人難」が 2 割超

当面の経営上の問題点をみると、「売上・受注の停滞、減少」(36.1%)の割合が最も高く、「求人難」(20.2%)、「原材料高」(15.4%)が続いています（図表-7）。「求人難」は前期から 2.2 ポイント上昇しています。業種別では、運送業 (53.9%) や建設業 (31.3%) で回答割合が高くなっています。

中小企業の業況は、全体で見れば緩やかに回復していますが、業種や地域では差がみられます。回復が着実に進み、こうした状況が解消していくか注目です。（金子 昌弘）

図表-7 当面の経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ～